

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	7	課題区分	C	令和6年4月30日	
横断的な課題	林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収源の確保					木曽地域振興局	
地域重点政策	林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収源の確保					木曽地域振興局	
実施機関	木曽地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	木曽地域木材産業振興対策推進事業				電話	0264-25-2225	
				E-mail	kisochi-rimmu@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	木曽地域の林業、木材産業の高付加価値化を推進し、地域産業としての成長を図る。					
	現状と課題	木曽地域は総面積の93%を森林が占める中で、天然木曾檜が希少となる一方、高品質な人工林の木曾ヒノキやカラマツの資源が充実してきている。しかしながら、地域資源の利活用を支える林業や木材産業は、様々な条件整備等は進めているものの、生産性向上や付加価値を高める体制づくりが立ち遅れ、未だに多くは原木のまま県外を中心に移出している現状にある。 こうした中、平成30年度に地域振興推進費を活用し、林業・木材産業の高付加価値化を推進させ、戦略的な施策を展開させることを目的として「木曽地域木材産業振興対策協議会」を設置しており、令和5年度から5か年間の「木曽地域の林業・木材産業の高付加価値化に向けたロードマップ2023」に沿って、その有効活用を目指す必要がある。					
概要等	内容 (変更後の内容)	<p>1 協議会の開催 ○学識経験者、木材関係団体代表等による木曽地域木材産業振興対策協議会(以下協議会という。)を3月に開催し、地域の課題解決のためロードマップの進捗管理、課題の検討等を行った。</p> <p>2 効果的な流通に必要な原木仕分実証(継続) ○ロードマップに基づき、専門家のアドバイスを仰ぎながら、R4に導入した簡易強度測定器を活用し、2月に林業・製材業者を対象に上松町萩原の土場において原木仕分けの実証を行い、流通の効率化、低コスト化に取り組んだ。</p> <p>3 高品質製材のためのJAS認証工場を核とした地域製材工場の水平連携の体制づくり ○木曽地域の水平連携の構築に向け、製材業者を対象とした優良事例調査の実施。アドバイザーによる課題調査や連携体制の検討等を行った。</p> <p>4 展示会への出店・普及啓発 ○新たな木材需要を喚起するため、令和6年1月11日～12日に東京ビックサイトにおいて全国規模で開催された「ウッドコレクション2024(モクコレ)」に木曽の木材製品を出展し、木曽産材、製材品等の啓発活動を展開した。同時に製品販売も行い木曽の木材の魅力発信に繋げることができた。</p>					
	事業期間	令和5年11月		～	令和6年3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	木曽地域木材産業振興対策協議会の開催	・進捗管理 ・課題検討	79,288	当年度実績・課題検討・次年度計画 3月 報償費@5300×10人・旅費26288円			
	原木仕分の実証	・強度測定の実証	0	実証試験1月 (地元の山林内で実施のため経費なし)			
	JAS認証工場を核とした地域製材工場の水平連携の体制づくり	・事例調査の実施	97,620	調査 3月(栃木県 (株)トーセン) 旅費32540円×3人=97620円			
	展示会による啓発活動	・展示会への出展 ・全国を対象とした啓発活動	93,580	ウッドコレクション2024(東京)1月 費用弁償30740円×2人・ブース使用料32100円			
合計		270,488					
指標状況及び達成	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	地域材を製材加工した製品出荷量(R4実績 13.199m <sup>3</sup> )		13,500m <sup>3</sup>	12,378m <sup>3</sup>	○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成		
事業実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年3月に木曽地域木材産業振興対策協議会を開催し、「木曽地域の林業・木材産業の高付加価値化に向けたロードマップ2023」に基づいた当年度実績や課題の検討、次年度計画の検討等を行った。</li> <li>効果的な流通に必要な原木の用途別仕分を行うため購入した強度測定器を活用し、1月に強度実証実験を行った。</li> <li>JAS認証工場を核とした地域製材工場の水平連携のため、先進地である栃木県の(株)トーセンへ調査、視察を行った。</li> <li>今後は調査の結果を参考に、「JAS認証工場」を中心とした木曽産材の安定供給等に必要な事業者の水平連携等の構築に向け、地域に適合した連携方法の検討を進める。</li> <li>今年度初めて「ウッドコレクション2024(モクコレ)」に参加し、多いに刺激を受けるとともに、改めて啓発活動の重要性を実感した。</li> <li>成果指標としていた地域材を製材加工した製品出荷量については、コロナ禍からの消費の落ち込みがなかなか回復せず伸び悩んだ部分があるとともに、ウッドショックからの回復により逆に供給過多になり価格が下落するなどの市場の混乱から抜け切れていないと考えられる。今後に期待したい。</li> </ul>						
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「木曽地域の林業・木材産業の高付加価値化に向けたロードマップ2023」に基づき、産・官・学の協働により着実に各種取組の展開を図り、地域材の高付加価値化等を推進する。</li> <li>令和6年度は、JAS認証工場を核とした地域製材工場の水平連携に必要な事業者の意見交換等を通じ、連携体制づくりに取組むとともに、下流域自治体への木曽産材利用の働きかけ、民国連携による森林・林業の情報発信に取り組む。</li> </ul>						